



“東北農食産学連携ネットワーク” 第36号をお届けします。
第36号では、東北ハイテク研究会産学連携セミナー「『知』の集積と活用の場」における研究開発プラットフォームの活動について学ぶ」について報告します。(1.7.17 於：仙台市、参加者 60名)

開催目的

農林水産省が実施する「『知』の集積と活用の場」における研究開発プラットフォームについては、令和元年7月現在、全国で161、東北地域でも10のプラットフォームが設立され、活動を展開しています。しかし、その運営については様々な苦勞があり、試行錯誤で活動を行っているのが実態です。

そのため、早くから研究開発プラットフォームを設立して活動を展開している東北大学のプラットフォームの運営と、そこに参加している企業の方々の取り組みを紹介し、今後の研究開発プラットフォームの運営、企業の参加と活動について参考となるような情報提供を目指したセミナーを開催しました。

プログラム

テーマ：『知』の集積と活用の場」における研究開発プラットフォームの活動について学ぶ

<講演・話題提供>

講演1 「科学的根拠に基づく高付加価値日本食・食産業研究開発プラットフォーム」の活動状況

水田 貴信 氏：同プラットフォームプロデューサー長、
株式会社 東北テクノアーチ 代表取締役社長

講演2 海外市場向けの日本酒の開発

霜鳥 朝子 氏：株式会社 一ノ蔵 商品開発室

講演3 「知」の集積と活用の場「高付加価値日本食とそのグローバル展開」におけるキッコーマンの取り組み

仲原 丈晴 氏：キッコーマン株式会社 研究開発本部 チームリーダー

<講演内容>

講演 1 では、プラットフォームのプロデューサー長である水田氏からプラットフォームの哲学とビジョンの大切さ、始めからガチガチに決めようとするのではなく、問題が発生したらその都度迅速に解決することがプラットフォームの運営では大切であることが強調された。



研究開発プラットフォームの運営方法
について語る水田貴信氏

講演 2 では、株式会社一ノ蔵 商品開発室の霜鳥氏から海外で売れる日本酒を開発するため、研究コンソーシアムに参加して海外向けの濃醇日本酒の酒質評価基準を、様々な研究機関の支援を受けながら科学的に解明できたことの意義が説明された。



一ノ蔵の日本酒輸出について
フロアーからの質問に答える霜鳥朝子氏

講演 3 では、キッコーマン株式会社 研究開発本部 チームリーダーの仲原氏からグローバルな研究体制を推進しているキッコーマンが、「美味しさ」への総合的なアプローチを産学連携で進めることのメリットと、「みりん」の旨みの総合的な解明による海外展開について報告された。



キッコーマンの“みりん”の海外輸出
について語る仲原文晴氏

なお、今回のセミナーでは、研究途上の未発表データを含めた報告が行われたため、配布資料無しで報告が行われました。そのため、ニュースレターでも配布資料の PDF ファイルは添付していません。御理解いただきたくお願い申し上げます。